



虚血性腸疾患

問 稲城市保健センター
☎378-3421

管閉塞症に類似します。一過性型、狭窄型に対しては絶食、補液などの保存的治療を行います。狭窄が高度の場合と壊死穿孔型では手術を要します。

腸間膜血管閉塞症

虚血性腸疾患は、血管の老化が進んだ高齢の人に多く見られる腹部疾患で、主要血管に閉塞のない虚血性大腸炎と血管閉塞がある腸間膜血管閉塞症に分けられます。

虚血性大腸炎

虚血による腸管の変化により、さらに一過性型、狭窄型、壊死穿孔型に分類されます。

左下腹部を中心とした急激な腹痛で始まり、下血・下痢が出現します。一過性型では症状は数日から1〜2週間で完全に消失しますが、狭窄型では急性の症状が治まったのち、腸管狭窄による腹痛が持続します。壊死穿孔型はまれで、

症状経過は後述する腸間膜血

管造影やCT検査で腸間膜血管の閉塞を認めれば確診となります。経動脈性に血栓除去を行うか、血管切除が治療法となります。しかし、早期診断が難しく、血管病変が高度に進んだ高齢者に多発するため一般に予後は不良です。

稲城市医師会

山川 晴耕